

共に生きていくことを喜び とするために ~生きていく道を切り開く チャンスを~



宇都宮市立築瀬小学校教諭 南沢 創 さん

町内の関係者78名の参加を得て、人権教育研修会が、9月21日午後2時より行われました。昨年度に引き続いて「互いの違いを認め合いながら、共に生きていく社会の実現を目指して」について考え合いました。今回は 網膜色素変性症という病気のために高3から視力低下、今は薄く光を感じる程度だという南沢創さんのお話を聞くことができました。その後、分散会で感想や意見を交換しました。「人が人を思いやれば、

「障がいのある人の人権を考える」をテーマに、素変性症という病気のために高3から視力低下、今は薄く光を感じる程度だという差別など起きない。心遣いが自然にできる町にしたい。」高木教育委員長の挨拶の言葉です。

南沢創さんの講演より

「共に生きる」

今は、宇都宮市立築瀬小学校の教諭として、一年生から四年生までの音楽と、全学年の道徳を担任と共に担当しています。その授業を通して、「目の不自由な人はこうであろう」という思い込みを、関わりの中で減らしていけたらいいと思っています。

一 環境は大切

私を生かすために、学校では大きな努力をしてきています。今年度は校長先生が中心となり、私と全ての担任が協力してそれぞれの教室で行う授業が計画され、始動しました。先ず枠組みを作る。そして、それに沿ってやってみることが大切です。カリキュラムの中に「障がいのある人の人権」を位置づけること。つまりそれが、人権意識が高まる環境づくりになると思います。新しい試みが始まるには、たくさんの人たちの大変な努力を要しますが、きちんと機能すれば教育効果は大きいと考えます。やってもやってもやり足りない、積み重ねていくことがとても大切です。いろんな環境に入っていくと、最初は「ウエルカム」で迎えられるが、徐々に居づらくなっていく、ということがしばしばあります。私たち障がいをもつ仲間が多くがこうしたことを経験しています。

二 いじめが始まった

花火の音に耳をふさぐ、幼い頃のこんな行為で私の目の異常が分かったようです。私の病は、強い光から目を守らないと病気の進行が早まると言うので、小学校の頃からサングラスをかけていました。そうするといじめが始まりました。「目の悪いの、うつっちゃうぜえ」。学校に居られず飛び出し、山で遊んでいました。美しい自然は裏切らない、いじめない。ある日山でセミをつかまえました。先生に「作文に書いてごらん」と言われ、書くこと作文コンクールに入選しました。「ぼくにもほめられることがあるんだ」。これが、その頃の私の生きる支えになりました。

それ以後も、いじめは続きました。小四のときに、カバンに犬の糞を入られました。けれど私はその時何も感じませんでした。悲しい気持ちが持てなくなっていたのです。そんな私が自殺しなくて済んだのは周りが注意してくれていたからです。理科の先生が山に連れて行ってくれ、「悲しかったら、ここへ来て蝶を見ていなさい。気持ちが落ち着くよ」と居場所を見つけてくれました。これがきっかけで生物学者になりました。低く下生物学者になる夢をあきらめなければならぬ状態となりました。そんな時、「このままだとダメになっちゃう」と、音楽の先生は、小さい頃からバイ

オリンを習っていた私に、高等学校オーケストラ連盟への参加を勧められました。音楽っていいなあ、とバイオリンの楽しさを再確認し、音楽の道に進むことになりました。大学、大学院と進み、栃木県の教員に採用されました。

踏まないで声をかけてほしい。一人で歩くのが大変だったころ、声をかけられるのがわずらわしかったのですが、障がい者も成長していきます。相手に対して失礼になってしまわないかという心をもつて接してもらえば、それは伝わる。会話しながら適切な関わりを考えていけばいいのではないかと思います。

三 生きていく道を切り開くチャンスを

生きる場所がある。これが幸せです。生かされる場所があり、それが少しずつ広がっていく。企業には、障がい者を雇用する義務がありますが、職場になじめない障がい者が多いことも事実です。いっしょに生きていくことを喜びとするために、チャンスを与えてください。失敗したら、何で失敗したか考え、またチャンスを与えてほしい。生きていく道を切り拓くチャンスをください。

「健常者」というのは、差別用語ではないと思います。コンプレックスや疎外感はありません。目が見えないのは強がりですが、自分を成長させる糧、生きるエネルギーにはなりました。目が見えなくなってきたとき、もう本が読めなくなりました。目が見えなくなってきたとき、もう本が読めなくなりました。でも今はこんなもの（パソコン）があります。パソコンを使って朗読できるようになったときの喜びは格別でした。

質問への答え

Q1 どういふ手助けをしてらうののこじやないっ

↓ 障がいの種類によつてこじやない

・車イスの人：自分でできることはやらせてほしい。手を貸してというまで、自分でやらせてほしい。「お困りのこと、ありますか？」と声をかけてほしい。躊躇



「失敗させてください！」 熱く語る南沢さん